

教師発達学第 13 回 授業力量形成プランの作成について

担当：木原俊行

1. 課題

講義内容と自らの授業力量形成史を踏まえて、今後の授業力量形成プランを作成しなさい。

2. 評価の観点と規準（60 点満点）

（1）完成：下記形式を遵守し、定められた期日に提出している（10 点）

（2）正確さ：記述に誤りやミスがない（10 点）

（3）内容の充実：作成するプランは、次の要件を満たしている（40 点）

講義で解説した、授業力量の 3 つのモデル、その内容をプランに反映させている。 < 15 点 >

自らの授業力量形成史の分析結果を参照している。また、それとの連続・発展性を確認できる。 < 10 点 >

プランには、新しいチャレンジが盛り込まれている。また、それは、具体的であるとともに、実行可能性が高い。 < 10 点 >

校内研修・研究やサークルにおける活動との接点が設定されている。 < 5 点 >

（4）内容の発展：講義で解説していない、教師の授業力量に関する知見を参照している（プランに反映させている）。 < 5 点 ~ > * プラスアルファ点

3. 形式

（1）ワープロもしくはコンピュータでレポートを作成し、A4 サイズの用紙にプリントアウトする。上下左右のマージンは 25 ミリ程度、本文の文字サイズは 10.5 程度、同フォントは明朝体。

(2) レポートには、表紙をつける。表紙には、レポートタイトル(「私の授業力量形成プラン」)、学籍番号、名前、提出年月日(2007年7月24日)、300字程度の要旨を載せる。

(3) 本文は、用紙を1ページ(横書き)40字×30行に設定して、3ページ。表紙も含めると4ページのレポートとして完成させる。

(4) 本文は、次のような構成とする(見出しに掲げること)。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">1. 現在の授業力量の総括<ul style="list-style-type: none">(1) 現在の授業力量の特長(2) 授業力量の充実に向けた課題2. 課題克服へのアプローチ<ul style="list-style-type: none">(1) 本年度内の取り組み(2) 次年度から3年間の取り組み(3) それ以降の取り組み3. 予想される困難とそれへの備え <p>註
文献</p> |
|---|

4. 発表までのスケジュール

7月10日: オリエンテーション, プランの構想, 木原に相談する(10日か17日に)

7月17日: 第1次レポートの発表(グループ発表)と相互評価 * 4~5部印刷

7月24日: 最終レポートの提出と発表等 * 15部印刷

(1) グループ内発表と批評

(2) グループ代表発表と批評